

# 人権侵害に挑む

## 国際社会で輝く女性たち

「日本は人権を守るためにもっと外交面で動いてほしい」と話す土井香苗さん。東京千代田区のHRW東京事務所



世界の人権侵害を調査するNGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」(HRW、東京都千代田区)の日本代表を務める土井香苗さん(34)は、政府に働き掛けるなどして人権を守る活動を続けている。

中学3年の時、国語の副教材として配られた、アフリカの難民キャンプをルポした犬養道子さんの「人間の大地」を読んで、問題意識に目覚めた。

国際人権NGO日本代表

土井 香苗さん

母親から「女性は資格がないと生きていけない」と言われ、大学3年で司法試験を受け1回で合格した。4年にはアフリカの新興国エリトリアの法律作りに参加。帰国後、しばらく弁護

# 「困難な仕事に使命感」



HRW東京事務所開設について記者会見する土井香苗さん(右)とケネス・ロス本部代表。2009年4月、東京都千代田区の日本外国特派員協会

士として難民問題などに取り組んだ。2005年に米国の大学ロースクールで国際法を学び、ニューヨークのHRW本部で働いた後、09年4月に東京事務所を開設した。

土井さんは、ミャンマーやスリランカなどの人権侵害をやめさせようと、同国に多大な財政援助を続けている日本政府に対し、政策も提言。HRWは中立性を保つため政府の援助を受けておらず、民間からの資金集めも重要な仕事だ。「今の仕事は非常に難しいが、使命感を感じています。法律の知識が役に立っています」